Panasonic®

取扱説明書

デジタル ワイヤレス サラウンド ヘッドホン

品番 RP-WF5500

イラストはホワイト仕様の製品です。

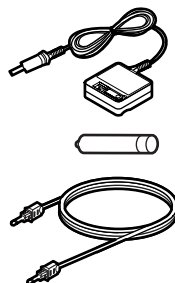
このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
■ 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
■ **ご使用前に「安全上のご注意」（☞23～25ページ）を必ずお読みください。**
■ 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

■ **付属品の確認**

まず最初に付属品を確かめてください。

□ ACアダプター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 個
（RFX7230）
□ 専用単3形充電式ニッケル水素電池 ・・・・・・・・・・・・・・・・1 本
□ 光デジタル接続ケーブル（光角型⇔光角型）・・・・・・・・・・1 本
買い替えは別売品をお買い求めください。（☞22ページ）

光デジタル接続ケーブルの先端キャップおよび包装材料などは
商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

付属品の買い替えは、お買い上げの販売店へご相談ください。
（　）内は買い替え時の品番です。品番は 2008年2月現在のものです。

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
松下グループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

http://www.sense.panasonic.co.jp/

充電式ニッケル水素電池の買い替えは
必ず専用の別売品
HHR-3AM/2B（2本組）（ケース付）
の1本をご使用ください。

主な特長

本機は2.4 GHz無線伝送方式（デジタル）を使用したデジタル ワイヤレス サラウンドヘッドホンです。
マルチチャンネルのサラウンド音場を、ヘッドホンで快適にお楽しみいただけます。

- ドルビーデジタル※、ドルビープロロジックⅡ※、DTS※対応
  （「ドルビーデジタルサラウンドEX」、「DTS-ES」表記のソフトも再生可能）
- BSデジタル放送や地上デジタル放送などのデジタル放送で使用される MPEG-2 AACにも対応
- 外来ノイズなどの影響を受けにくいCD音質と同等のデジタル無線伝送（非圧縮伝送）を利用したワイヤレスヘッドホン
- 独自に開発したφ40 mm大口径ドライバーユニットにより、臨場感あふれ、迫力あるサラウンド音場をヘッドホンで実現
- 最大で30 mの到達距離。（ご使用の環境により異なります。）
- ヘッドホンをトランスミッターにのせるだけの簡単充電方式
- 光デジタル入力端子を2系統、光デジタル出力端子（スルー）を1系統装備
- 音声入力のない状態が約5分続くと自動的にトランスミッターの電波の送信が停止し、消費電力をセーブ
- ヘッドホンを頭の上からかけるだけで自動的に電源が入り、はずすと自動的に電源が切れるハウジング傾き連動のオートパワーオン／オフ機能
- ヘッドホンの左右の音量を連動して調節できるVOL（ボリューム）つまみ
- ヘッドホンの電源は付属の専用充電式ニッケル水素電池、または別売の単3形アルカリ乾電池のどちらでも使用可能
- 受信範囲外での耳障りなノイズをカットするミューティング機能
- 通気性に優れたオープンエアー型ユニットの採用により快適な装着感を実現

※本機のトランスミッターは、DTSデコーダーおよびドルビーデジタルデコーダー、ドルビープロロジックⅡデコーダー、MPEG-2 AACデコーダーを搭載しています。

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください（☞23～25ページ）

準備
使う
ご参考

各部のなまえとはたらき

トランスミッター上面

ID/TUNING ボタン、ランプ
（☞14、16ページ）
電波の状態が悪くなったときや、ヘッドホンを増設するときに使用します。

SELECTOR（切換）つまみ
（☞12ページ）
入力（DIGITAL 1、DIGITAL 2、ANALOG）を切り換えます。

BASS BOOST ボタン、ランプ
（☞16ページ）
豊かな低音で聞くときに使用します。

DECODE MODE ランプ
（☞12～13ページ）
（DD DIGITAL、DD PRO LOGIC Ⅱ、DTS、MPEG-2 AAC）
入力された音声信号の記録方式をトランスミッターが自動判別して点灯します。

SURROUND ランプ
（☞15ページ）
（DD HEADPHONE、MOVIE、MUSIC）

SURROUND（切換）ボタン
（☞15ページ）
サラウンドモード（DD HEADPHONE、DD HEADPHONE MOVIE、DD HEADPHONE MUSIC、OFF）を切り換えます。
サラウンド音場で聞くことができます。

OPR/CHG（動作/充電）ランプ
（☞7ページ）
- 動作時は緑色に点灯
- ヘッドホン充電時は赤色に点灯
- 充電完了時と約5分間音声信号が入力されない場合は消灯

充電端子
（☞7ページ）

トランスミッター後面

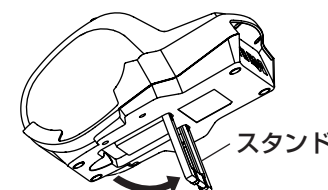
DIGITAL IN 1、2（光デジタル入力）端子
（☞10ページ）
テレビやDVDプレーヤーなど、別売のデジタル機器の光デジタル出力端子に接続します。

DIGITAL OUT（光デジタル出力）端子
（☞10ページ）
SELECTORつまみで選択した入力と同じデジタル信号が出力されます。
- ANALOGを選択しているときは、DIGITAL IN 2 の入力と同じデジタル信号が出力されます。

SELECTOR つまみ	DIGITAL OUT
DIGITAL 1	DIGITAL IN 1 の入力と同じ信号
DIGITAL 2	DIGITAL IN 2 の入力と同じ信号
ANALOG	

DC IN 6 V 端子
（☞7ページ）
付属のACアダプターを接続します。
（必ず付属のACアダプターをお使いください。異なる製品を使うと、故障の原因となります。）

LINE IN（ライン入力）端子
（☞11ページ）
ビデオデッキやテレビなど、別売のAV機器の音声出力端子に接続します。

スタンド
ボタンやランプを見やすくするときにスタンドを起こして設置します。

各部のなまえとはたらき

ヘッドホン

ヘッドホンの電源準備

専用充電式電池（付属）を使う

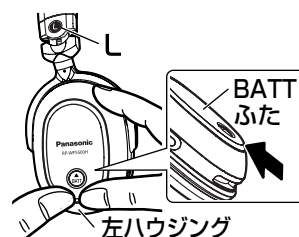
お買い上げ時の充電式電池は、まず充電してからお使いください。

付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる

左ハウジングの[BATT]（電池）ふたの端を押して開け、ふたを取りはずす

付属の充電式電池を入れる
- ⊕と⊖を正しく入れる。
- ⊖側のバネを電池で押して入れる。バネはさわったり、変形させたりしない。

バネ
専用充電式電池（付属）1本
取り出すときは⊕側を押す。

電池ふたを浮かないようにはめ込み、ふたの端を押して取り付ける
電池ふたがロックするまでしっかり閉じる。

充電する

1 ACアダプター（付属）をトランスミッターに接続する
- トランスミッターの全てのランプが点灯したあと約4秒後に消灯し、OPR/CHGランプが緑色に点灯します。

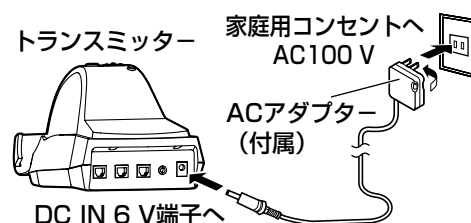
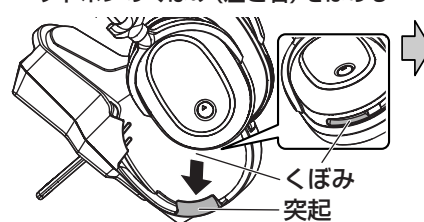
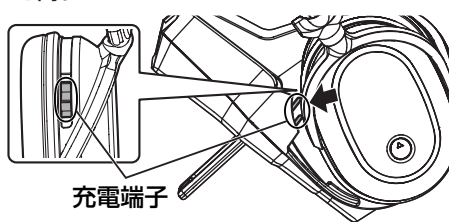
お願い
- 必ず付属のACアダプターをお使いください。

トランスミッター
家庭用コンセントへ AC100 V
ACアダプター（付属）
DC IN 6 V端子へ

2 ヘッドホンとトランスミッターの充電端子が接触するようにヘッドホンをトランスミッターの上にのせる
- トランスミッターのOPR/CHGランプが赤色に点灯し、充電が始まります。
- 充電が完了すると、OPR/CHGランプが消灯します。

（動作時：緑 → 充電時：赤 → 充電完了：消灯）

ヘッドホンをのせるときは
ヘッドホンの左右を確認してハウジングが平行になるように持ち

①**トランスミッターの突起（左と右）にヘッドホンのくぼみ（左と右）をはめる**

②**充電端子どうしが接触するようにヘッドホンを倒す**

ヘッドホンの電源準備

お願い

充電完了後、ヘッドホンをトランスミッターにのせ直すと再充電されます。使用しないで再充電をくり返すことはしないでください。電池が過充電となり、発熱や液もれの原因となります。

お知らせ

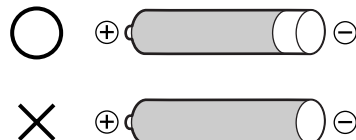
- トランスミッターにヘッドホンがのっていると、電波の送信が自動的に停止します。
- 充電は0 ℃～40 ℃の環境で行ってください。それ以外の環境で行うと充電時間が長くなったり、充電できない場合があります。
- 充電中は、充電式電池が多少熱くなりますが異常ではありません。
- ヘッドホンは充電が完了していなくても使用できます。
- 長期間使用しないときは
  電池保護のため、充電式電池をヘッドホンから取り出してください。
  機器側の電源が切れていても約1.3 Wの電力を消費しています。節電のためにACアダプターをコンセントから抜いておくことをおすすめします。

■ 専用充電式電池について

専用単3形充電式ニッケル水素電池

必ず付属品または専用の別売品（HHR-3AM/2B）の1本をご使用ください。

一般の単3形充電式電池

本機で充電することはできません。

■ 充電時間の目安と持続時間

充電時間	持続時間※1
約3時間※2	約6時間※3

※1　1 kHz、1 mW＋1 mW出力時
※2　充電が空の状態からフル充電するのにかかる時間
　• 充電が完了しない場合でも、充電動作は約3時間で終了します。
※3　周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。

■ OPR/CHGランプが赤く点灯しない場合は

ヘッドホンの左右を確認し、トランスミッターとヘッドホンの充電端子が正しく接触するようにヘッドホンをトランスミッターの上にのせ直してみてください。

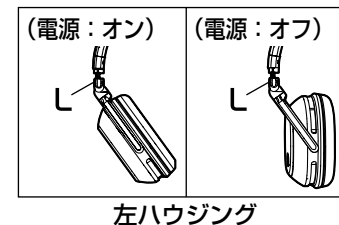
- トランスミッターとヘッドホンの充電端子にゴミが付着しているときは綿棒などで軽くふき取ってください。

■ ヘッドホンをお使いになった後、再充電するには

ヘッドホンをトランスミッターに再度のせてください。OPR/CHGランプが赤く点灯した後、充電が始まります。

■ ヘッドホンのオートパワーオン/オフ機能

本機は左ハウジングの傾きによって、ヘッドホンの電源をオン／オフしています。ヘッドホンを頭の上から両方の耳にかけると電源が入り、頭からはずすと自動的に電源が切れます。

- 帽子などを頭にかぶって、帽子の上からヘッドホンをかけると電源が入らないことがあります。左ハウジングがオートパワーオンになる状態でお使いください。
- お使いにならないときは、左ハウジングがハンガーに添った状態にならないようにしてください。オートパワーオン機能が誤って働いてしまい、電池が消耗します。ハンガーから離れた状態にしてください。

左ハウジング

■ 電池の消耗を確認する

左ハウジングをハンガーに添わせてオートパワーオン状態で確認します。右ハウジングのOPRランプが消灯している、または使用中にOPRランプが点滅したり、音がひずむ、とぎれとぎれになる、「ボッボッ」というノイズ音が聞こえたり雑音が多くなったときは電池が消耗しています。充電するか、新しいアルカリ乾電池でお使いください。

専用充電式電池の寿命について

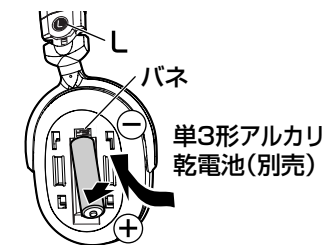
付属の専用充電式ニッケル水素電池は約300回充電できます。充電しても持続時間が極端に短くなった場合は、電池の寿命と思われます。<u>必ず専用の充電式電池（別売）HHR-3AM/2Bの1本と取り換えてください。</u>

アルカリ乾電池（別売）を使う

本機は別売の単3形アルカリ乾電池でもお使いになれます。

「付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる」（☞7ページ）と同じ方法でアルカリ乾電池1本をヘッドホンに入れます。

- ⊕と⊖を正しく入れる。
- ⊖側のバネを電池で押して入れる。
  バネはさわったり、変形させたりしない。

取り出すときは⊕側を押して取り出してください。
トランスミッターにのせても充電されません。

■ 乾電池の持続時間

乾電池の種類（おすすめ）	持続時間※1
パナソニック アルカリ乾電池使用時	約3.5時間※2

※1　1 kHz、1 mW＋1 mW出力時
※2　周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。

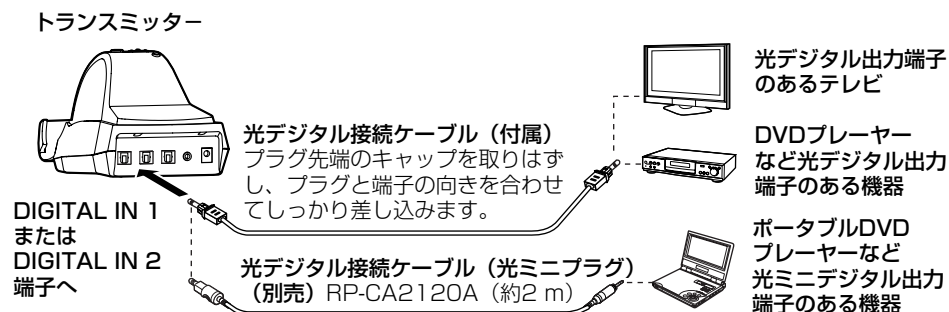
お知らせ

マンガン乾電池は、持続時間が極端に短くなるためおすすめできません。

接続する

- 接続する前にデジタル機器またはアナログ機器の電源を切っておいてください。
- **デジタル機器またはアナログ機器をトランスミッターに接続した後、ACアダプター（付属）をトランスミッターに接続してください。（☞7ページ「充電する」手順1）**
- 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

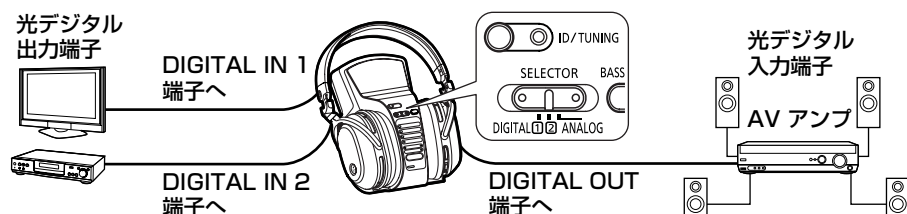
デジタル機器をつなぐ

付属の光デジタル接続ケーブルを使って、テレビやDVDプレーヤーなど※の光デジタル出力端子と、トランスミッターのDIGITAL IN 1 または 2 の端子をつないでください。

光デジタル接続ケーブル（光ミニプラグ）（別売）
ポータブルDVDプレーヤーやポータブルCDプレーヤーなどの光ミニデジタル出力端子からDIGITAL IN 1 または 2 の端子へつなぐときは、光デジタル接続ケーブルRP-CA2120A（約2 m）（光角型プラグ⇔光ミニプラグ）などをお使いください。

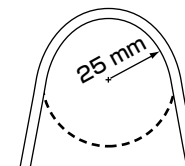
（お知らせ）
※ パソコンの光デジタル出力端子への接続は動作保証できません。

■ AVアンプなどに接続する

DIGITAL IN 1 および 2 の端子に光デジタル出力機器を接続し、DIGITAL OUT端子にAVアンプ（別売）などを接続しておくと、光デジタル接続ケーブルをつなぎ替えすることなく入力の切り換えができます。

- SELECTORつまみで本機の入力切り換えとDIGITAL OUT端子に接続した機器（AVアンプなど）への出力切り換えが同時にできます。ANALOGを選択するとDIGITAL IN 2 の入力がAVアンプなどへ出力されます。（☞5ページ）
- トランスミッターにAC アダプターが接続されていないと、入力の切り換えができません。

■ 光デジタル接続ケーブルについてのお願い

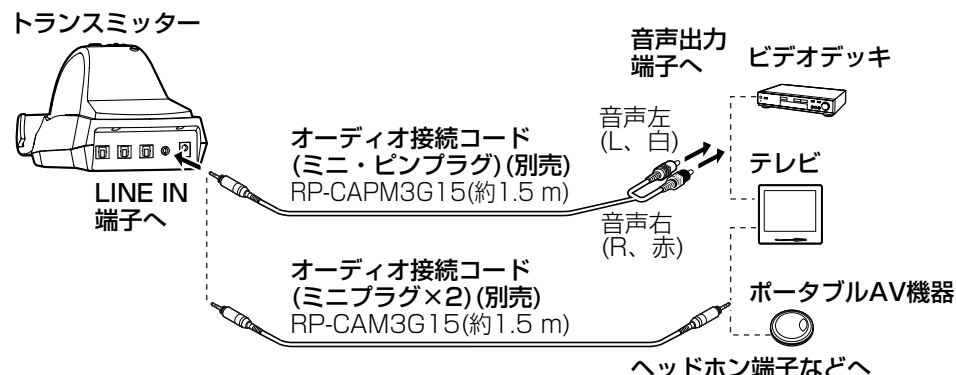
- 光デジタル接続ケーブルには落下物などによる衝撃を与えないでください。
- 光デジタル接続ケーブルの抜き差しは、プラグを持って、丁寧に行ってください。
- 光デジタル接続ケーブルの先端が汚れると性能が低下しますので、汚さないようにしてください。
- 保管の際は、プラグ先端にキャップを付けて、光デジタル接続ケーブルを折り曲げすぎないようにしてください。

光デジタル接続ケーブルの最小曲げ半径は25 mmです。

■ DTS音声を聞くには

DTSなどの音声切り換えは、つないだ機器側で行ってください。

- DTS音声で収録されたDVDを再生するには、DTSに対応したDVDプレーヤーが必要です。（詳しくはお使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。）
- DVDプレーヤーのDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている場合は、DVDメニューでDTS出力を選択しても音が出ないことがあります。
- DVDプレーヤーと本機をアナログで接続している場合、音が出ないことがあります。この場合は、デジタルで接続してください。
- DTSフォーマットのCDで、早送り時や巻き戻し時などにノイズが発生することがありますが、故障ではありません。

アナログ機器をつなぐ

別売のオーディオ接続コードを使って、ビデオデッキやテレビなどの音声出力端子と、トランスミッターのLINE IN端子を接続してください。

オーディオ接続コード（別売）
テレビやビデオデッキなどの音声出力ピン端子へつなぐときは
RP-CAPM3G15（約1.5 m）（φ3.5 mmステレオミニプラグ⇔ピンプラグ×2）
テレビやポータブルAV機器のヘッドホン端子などのステレオミニジャックへつなぐときは
RP-CAM3G15（約1.5 m）（φ3.5 mmステレオミニプラグ×2）などをお使いください。

（お願い）
テレビやポータブルAV機器のヘッドホン端子などの出力が低く設定されていると、ノイズが発生することがありますので、音量をひずまない範囲で大きくしてお使いください。

つないだ機器の音声を聞く

操作に入る前に、必ず「接続する」(☞10〜11ページ) をご覧のうえ、正しい接続を行ってください。

1 トランスミッターをつないだ機器の電源を入れる

2 [SELECTOR] を切り換えて、聞く音声を選ぶ

DIGITAL 1: DIGITAL IN 1 端子につないだ機器の音声

DIGITAL 2: DIGITAL IN 2 端子につないだ機器の音声

ANALOG: LINE IN端子につないだ機器の音声

お願い

- MPEG-2 AAC入力の2ヵ国語の場合は、主音声となります。2ヵ国語の音声出力を選択して出力できる機器はLINE IN端子につなぎ、機器側で聞きたい音声を選んでください。(☞15ページ)

3 トランスミッターからヘッドホンをはずす

4 VOLつまみで音量を下げ、ヘッドホンを頭の上からかける

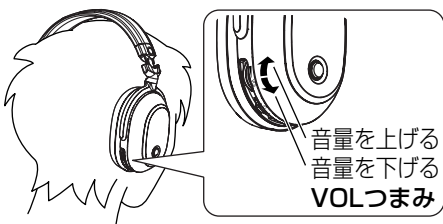
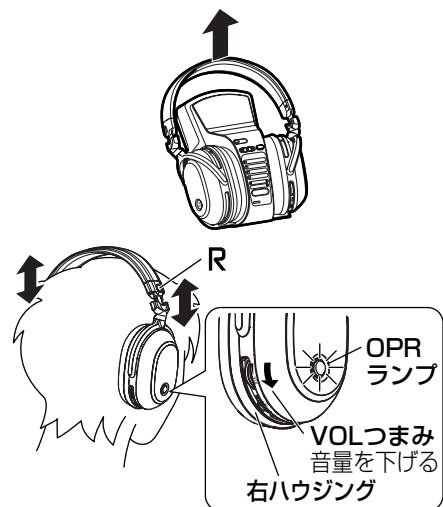
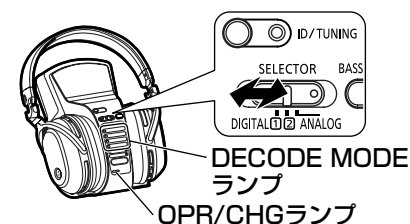
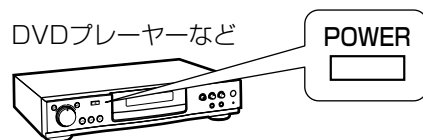
右イヤーパッド (R) を右耳に、左イヤーパッド (L) を左耳に合わせ、オートパワーオン／オフ機能 (☞9ページ) が正確に働くように、頭の上から両方の耳にかけてください。

- 右ハウジングのOPRランプが赤く点灯し、自動的に電源が入ります。
- イヤーパッドが耳に正しくフィットしないときは、ヘッドバンドを動かしてスライダーを調節します。

5 手順2で選んだ音声の機器を再生する

- 電波が送信され、送信に最適な周波数が自動的に選択されます。動作中はトランスミッターのOPR/CHGランプが緑色に点灯します。
- つないだAV機器から入力される音声信号に応じて、DECODE MODE (デコードモード) ランプが数秒後に点灯します。(☞13ページ)

6 [VOL] で音量を調節する

サラウンド効果を選んで聞くには、15ページをご覧ください。

お願い

- 映画の場合、静かなシーンで音量を上げすぎると、急激な爆発シーンなどで耳を痛めることがあります。音量を上げすぎないでください。
- ヘッドホンは、電波が届く範囲でお使いください。(☞14ページ)

お知らせ

- トランスミッターから離れてヘッドホンを頭にかけ直した場合、トランスミッターとの距離によっては、ヘッドホンの電源が入ってから音が出るまでの時間が長くなることがあります。
- 本機は32 kHz／44.1 kHz／48 kHzの再生サンプリング周波数に対応していますが、96 kHz／192 kHzの再生サンプリング周波数の信号を入力した場合、異常音が発生することがあります。
- 使用中にトランスミッターからACアダプターをはずすと、雑音が入ることがあります。
- 音楽CDのように映像を伴わないソースの場合、音の定位がわかりにくい場合があります。
- 本機は人間の平均的なHRTF※（頭部伝達関数）をシミュレートしていますが、HRTFには個人差があるためサラウンド効果の感じかたは人により異なる場合があります。

※ Head Related Transfer Functionの略です。

■ DECODE MODE（デコードモード）ランプについて

入力された音声信号の記録方式をトランスミッターが自動判別して、下記のDECODE MODE（デコードモード）ランプが点灯します。ドルビーデジタル／DTSなどの音声切り換えは、つないだ機器側（DVDプレーヤーなど）で行ってください。

- DD DIGITAL： ドルビーデジタルフォーマットで記録された信号で、最大5.1チャンネルに対応
- DD PRO LOGIC Ⅱ：アナログ入力信号、デジタル入力信号のPCM 2チャンネル信号またはドルビーデジタル2チャンネル信号がドルビープロロジックⅡ処理された場合で、5チャンネルサラウンド音声を生成（サラウンドモード（☞15ページ）の「OFF」を選んでいる場合はドルビープロロジックⅡ処理されません）
- **DTS**：DTSフォーマットで記録された信号で、最大5.1チャンネルに対応
- **MPEG-2 AAC**：MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式で、デジタルテレビ音声方式として採用されている。最大5.1チャンネルに対応

お知らせ

- DIGITAL IN 1 または 2 の端子につないだ機器が、早送りや巻き戻しなど「再生」以外の状態ではDECODE MODE（デコードモード）ランプが正確に点灯しない場合があります。「再生」状態にするとDECODE MODE（デコードモード）ランプが正確に点灯します。

■ ヘッドホンから音声が聞こえないときは（ミューティング機能）

電波の届く範囲から離れたり、電波の状況が悪くなると、自動的にミューティング機能が働き、ヘッドホンから音声が聞こえなくなります。トランスミッターに近づけば、自動的にミューティング状態は解除されます。それでも音がとぎれる場合は、最適な周波数を選択してお使いください。(☞14ページ「最適な周波数の選択」)

■ 約5分間音声信号が入力されないと（自動停止機能）

- トランスミッターのOPR/CHGランプなど全てのランプが消灯し、電波の送信が自動的に停止します。再び音声信号が入力されると自動的に電波が送信されます。
- アナログ入力で非常に小さい音が約5分間続いたときも、電波の送信が停止することがあります。この場合はつないだ機器の音量を上げ、ヘッドホンの音量を下げてお使いください。LINE IN端子につないだ機器からノイズ信号が出力されていると、電波の送信が停止しない場合があります。

つないだ機器の音声を聞く

■ 電波の届く範囲について

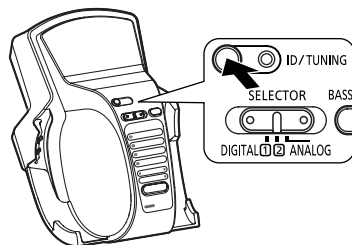
本機は無線伝送方式を使用しています。電波が届く範囲でお使いください。
トランスミッターから電波が届く範囲は最大30 mです。
トランスミッターからヘッドホンをはずすと、自動的に最適な周波数が選択されますが、使用中に電波の届く範囲から離れたり、電波の状況が悪くなると音がとぎれる場合があります。トランスミッターに近づくか、最適な周波数を選択してお使いください。
（☞下記「最適な周波数の選択」）

- 本機は2.4 GHz帯の周波数を使用しているため、障害物（鉄筋コンクリート製の壁や金属製のドアなど）で電波がさえぎられた場合は音がとぎれることがあります。これらの現象は電波の特性によるもので、故障ではありません。なるべく聞こえやすい位置でお使いになることをおすすめします。
- 他の2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどを併用すると音声がとぎれることがあります。

■ ヘッドホン使用中、雑音が入ったり音がとぎれるときは（最適な周波数の選択）

電波の届く範囲から離れたり、2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどの影響を受けて、ヘッドホンの受信状態が悪くなると雑音が入ったり音がとぎれる場合があります。トランスミッターに近づいても直らない場合は、次の操作で伝送に最適な周波数を選択してください。

トランスミッターの[ID/TUNING]を1回ポンと押す

- ID/TUNINGランプが緑色に点灯し、トランスミッターが周波数を変えて、送信が始まります。
- トランスミッターから送信されている周波数をヘッドホンが自動的に選択し、雑音や音がとぎれる状態が解消されます。

雑音や音がとぎれる状態が解消されないときは

数回、上記の操作を行って最適な周波数を選択してください。

- 上記の操作を行っても解消されない場合は、トランスミッターとヘッドホンを2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器などからできるだけ離してご使用いただくと解消されることがあります。

サラウンド効果を選んで聞く

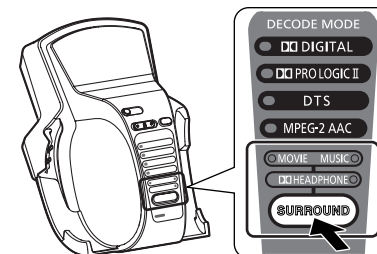
入力された音声信号の記録方式をトランスミッターが自動判別して、DECODE MODE（デコードモード）ランプが点灯します。（☞13ページ）

■ 入力信号がマルチチャンネルのDD DIGITAL、DTSおよびMPEG-2 AACの場合

最大5.1チャンネルのサラウンド音場がお楽しみいただけます。

[SURROUND］を押して、DD HEADPHONEサラウンドモードを選ぶ

押すたびに　DD HEADPHONE ←→ OFF

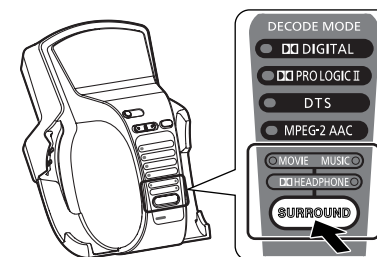
- SURROUNDランプの“DD HEADPHONE”が点灯します。
- サラウンドモードの「OFF」を選ぶとSURROUNDランプは点灯しません。
- 電源（ACアダプター）を入れ直すと、DD HEADPHONEサラウンドモードが選択されます。

サラウンドモード	サラウンド効果
DD HEADPHONE	最大5.1チャンネルのサラウンドをマイルーム・シアターで聞いているような迫力あるサウンドで再生します。
OFF	通常のステレオヘッドホン再生。

■ 入力信号が2チャンネルのMPEG-2 AAC、アナログ、CDなどの場合

マルチチャンネル音声のようなサラウンド音場がお楽しみいただけます。

[SURROUND］を押して、好みのサラウンドモードを選ぶ

押すたびに　DD HEADPHONE MOVIE → DD HEADPHONE MUSIC → OFF（→ DD HEADPHONE MOVIEに戻る）

- サラウンドモードのDD HEADPHONE MOVIEまたはDD HEADPHONE MUSICは、前回使用したモードが先に選択できます。
- SURROUNDランプの“DD HEADPHONE”と“MOVIE”または“MUSIC”が点灯します。
- サラウンドモードの「OFF」を選ぶとSURROUNDランプは消灯し、デコードモードランプの“DD PRO LOGIC Ⅱ”も消灯します。
- 電源（ACアダプター）を入れ直すと、サラウンドモードのDD HEADPHONE MOVIEが選択されます。

サラウンドモード	サラウンド効果
DD HEADPHONE MOVIE	臨場感あるマイルーム・シアターの音場を再現するモード。映画などのソースに適しています。
DD HEADPHONE MUSIC	マイルーム・シアターの音場を再現するモード。音楽ソースに適しています。
OFF	通常のステレオヘッドホン再生。

お知らせ

- MPEG-2 AACモノラル音源を再生している場合は、[SURROUND]を押してもサラウンドモードは選べず、サラウンド効果は得られません。
- MPEG-2 AACの入力が副音声による2ヵ国語の場合は、主音声となりサラウンド効果は得られません。2ヵ国語の音声出力を選択して出力できる機器の場合は、LINE IN端子につなぐとその音声が聞けます。ただし、機器によっては音声出力が選択できない場合があります。
- 再生する入力信号によっては、選んだサラウンドモードにより再生音量に違いが生じる場合があります。

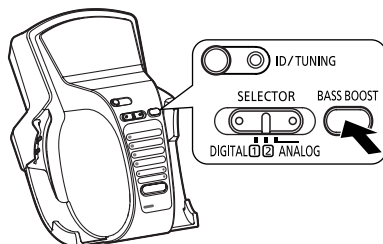
豊かな低音で聞く

低音が強調され、厚みのある低音でお楽しみいただけます。

[BASS BOOST] を押す

- BASS BOOSTランプが点灯します。
- 解除するには、再度押す。

(お知らせ)

電源（ACアダプター）を入れ直すと、解除します。

ヘッドホンを増設するには

本機では、別売の増設用デジタル ワイヤレス サラウンド ヘッドホン（RP-WF5500H）を増設すると、複数の人が同時にワイヤレスでマルチチャンネルのサラウンド音場を楽しむことができます。増設したヘッドホンは、本機のトランスミッターで充電を行います。

- 電波が届く範囲内（☞14ページ）であれば、最大8台まで使用可能です。
- RP-WF5500H（別売）以外の増設用ヘッドホンは使用できません。
- トランスミッターにヘッドホンがのっていると、電波の送信が自動的に停止します。増設用ヘッドホンを使用するときは、ヘッドホンをトランスミッターからはずしてください。

■ 増設用ヘッドホンを登録する

トランスミッターには固有のID（認識番号）が設定されています。トランスミッターに設定されているID（認識番号）を増設用ヘッドホンに登録しなければ使用することができませんので、必ず以下の登録作業を行ってください。

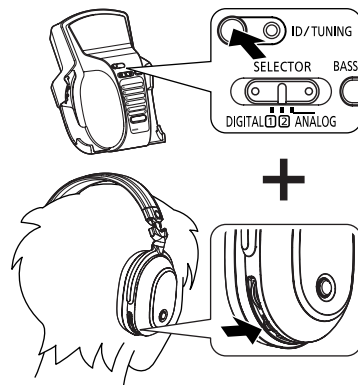
- 増設用ヘッドホンに付属の専用充電式電池は登録作業の前に充電するか、別売の単3形アルカリ乾電池を使用してください。

1 トランスミッターからヘッドホンをはずす

トランスミッターが送信準備状態になります。

2 増設用ヘッドホンを頭の上からかける

ヘッドホンの電源が入ります。

3 トランスミッターの[ID/TUNING]と増設用ヘッドホンの[ID]を同時に押し続け、トランスミッターのID/TUNINGランプ（緑色）が点滅から点灯に変わったら（IDが登録されます）、はなす

(お願い)

増設用ヘッドホンを2台以上増設するときは、1台づつ登録作業を行ってください。登録作業を同時に2台以上行った場合、登録できません。

(お知らせ)

- ID登録は何度でも行うことができ、登録するたびにIDがヘッドホンに上書きされます。
- ヘッドホンは本機とは別のトランスミッター（RP-WF5500T）とでも、ID登録すれば使用できます。再度本機のトランスミッターで使用するときは、ID登録をし直してください。
- 本機のヘッドホンには、すでに出荷時に本機のトランスミッターのIDが登録されています。

使用上のお願い

ワイヤレス機器について

本機は2.4 GHz帯の周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項をお読みの上お使いください。

この機器の使用周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに使用周波数を変更するか、または電波の使用を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：松下電器産業株式会社 ナショナル パナソニック お客様ご相談センター
（☞26ページをご覧ください。）

■ 周波数表示の見かた（本機の証明ラベルに記載）

2.4 DS 5

- 2.4 GHz帯を使用
- 変調方式がDS-SS方式
- 電波与干渉距離50 m以下
- 2.400 GHz～2.4835 GHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する

■ 機器認定

本機は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。ただし、本機に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。

- 分解／改造する
- 本機に貼ってある定格銘板および証明ラベルをはがす

■ 使用制限

日本国内でのみ使用できます。

- ワイヤレス通信時に発生したデータおよび情報の漏洩について、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 使用可能距離

約30 m 以内で使用してください。間に障害物や近くに干渉機器がある場合や、人が間に入った場合、周囲の環境、建物の構造によって使用可能距離は短くなります。上記の距離を保証するものではありませんのでご了承ください。

■ 他機器からの影響

- 本機との距離が近いと電波干渉により、音がとぎれたりするなどの不具合が生じる可能性があります。以下の機器よりできるだけ離して使用することをおすすめします。

  ワイヤレスLAN／電子レンジ／OA機器／デジタルコードレス電話機／その他電気製品など

通常、本機はこれらの家庭用機器との電波干渉を自動的に避けるよう設計されていますが電波の干渉がある場合、音がとぎれることがあります。この場合、最適な周波数を選択してお使いください。（☞14ページ「最適な周波数の選択」）

■ 用途制限

本機は一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途※での使用を想定して設計・製造されたものではありません。ハイセイフティ用途に使用しないでください。

※以下のような、きわめて高度な安全性が要求され、直接生命・身体に重大な危険性を伴う用途のことをいいます。

例）原子力施設における核反応制御／航空機自動飛行制御／航空交通管制／大量輸送システムにおける運航制御／生命維持のための医療機器／兵器システムにおけるミサイル発射制御など

使用上のお願い

ご使用について

■ 適応機器

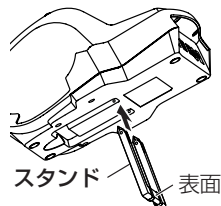
本機のトランスミッター、ヘッドホンおよび別売の増設用デジタル ワイヤレス サラウンド ヘッドホン（RP-WF5500H）の間で使用できます。この組み合わせ以外、他の2.4 GHz帯の周波数を使用するヘッドホンは使用できません。

■ 設置について

- 次のような場所には置かないでください。
  - －直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所
  - －ほこりの多い所
  - －振動の多い所
  - －ぐらついた台の上や傾いた所
  - －風呂場など、湿気の多い所

■ 取り扱いについて

- トランスミッター、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
  トランスミッターのスタンドを立てた状態で上から強く押さないでください。スタンドがはずれる場合があります。
  スタンドがはずれたときは
  スタンドをトランスミッター底面のくぼみへ、強く押してはめ込んでください。スタンドの表裏を逆にはめ込むと、スタンドの収納ができなくなります。

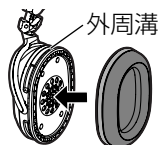
- 水などの液体に濡らさないでください。故障の原因となります。

■ ヘッドホンについて

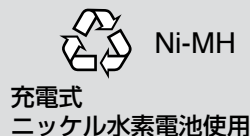
騒音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

■ イヤーパッド（左、右）を交換するには

イヤーパッドは消耗品です。
古くなったイヤーパッドを手で持ってはずし、交換用イヤーパッド（別売）をハウジングの外周溝にはめ込んでください。
交換用イヤーパッド：RFX7275（ホワイト仕様）
RFX7390（ブラック仕様）
（1 個／左、右パッド共用）（サービスルート扱い）

充電式電池使用後は、
貴重な資源を守るためにリサイクルへ！
使用済み充電式電池の届け先：
最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。
- ホームページ：http://www.jbrc.net/hp

Ni-MH
充電式
ニッケル水素電池使用

-このマークがある場合は-

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報
このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

お手入れ

ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤を使わないでください。

- 溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
- 柔らかい乾いた布でほこりや指紋をふいてください。汚れがひどいときは、乾いた布を水にひたし、よく絞ってから汚れをふき、そのあと、乾いた布でふいてください。
- 台所用洗剤や化学ぞうきんは使用しないでください。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。
販売店へお持ちになるときは、必ずヘッドホンとトランスミッターを一緒にお持ちください。

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	➡ トランスミッターにACアダプターが接続されていることを確認する。（☞7ページ） ➡ トランスミッターとAV機器の接続を確認する。（☞10～11ページ） ➡ トランスミッターのSELECTOR切換つまみの設定が、接続した機器を正しく選んでいるか確認する。（☞12ページ） ➡ トランスミッターにつないだAV機器の電源を入れ、演奏（再生）を始める。トランスミッターのOPR/CHGランプが緑色に点灯していることを確認する。（☞12ページ） ➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。（☞11ページ） ➡ ヘッドホンを頭の上から両方の耳にかけ直す。（☞12ページ） ➡ ヘッドホンの音量を上げる。（☞12ページ） ➡ ミューティング機能が働いている。（☞13ページ） • 電波が届く範囲に移動する。 ➡ ヘッドホンをオートパワーオン状態にしてもOPRランプが消灯している。（☞9ページ） • 専用充電式電池が消耗しているので充電をする。充電できないときは専用充電式電池またはアルカリ乾電池を新しいものと交換する。それでもOPRランプが消灯したままの場合は、販売店にお持ちください。 ➡ デジタル入力を選択している場合は接続機器の出力設定が「OFF」や「切」になってないか確認する。 ➡ DTSに対応していないDVDプレーヤーでDTS音声トラックを再生している。（☞11ページ） • DTSに対応したDVDプレーヤーを使用する。またはDolby DigitalやPCM音声トラックを選択する。 ➡ DVDプレーヤー（ゲーム機を含む）のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」の状態でDTS音声で収録されたDVDを再生している。（☞11ページ） • お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡ DVDプレーヤー（ゲーム機を含む）と本機をアナログで接続している状態でDTS音声で収録されたDVDを再生している。（☞11ページ） • デジタルで接続してください。（DVDプレーヤーからアナログ音声が出力されない場合があります。） ➡ 増設したヘッドホンにトランスミッターのIDが登録されていない。（☞16ページ） ➡ 増設したヘッドホンを充電している。 • 増設したヘッドホンをトランスミッターからはずす。（☞16ページ）

故障かな!?

症状	原因と対応のしかた
音が小さい	➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。(☞11ページ) ➡ ヘッドホンの音量を上げる。(☞12ページ)
音がひずむ	➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を下げる。(☞11ページ) ➡ DTSソース視聴時は、トランスミッターのSURROUND切換ボタンで DD HEADPHONEサラウンドモードに切り換える。(☞15ページ)
音がとぎれとぎれになる (同時にノイズが出る場合もある)	➡ トランスミッターの位置を変える。電波が届く範囲で使用する。(☞14ページ) ➡ ヘッドホンのOPRランプが使用中に点滅したり、音がひずむ、とぎれとぎれになる、「ボッボッ」というノイズ音が聞こえたり雑音が多くなった。(☞9ページ) • 専用充電式電池が消耗しているので充電をする。充電できないときは専用充電式電池またはアルカリ乾電池を新しいものと交換する。 ➡ トランスミッターとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどがないか確認する。(☞17ページ) ➡ 最適な周波数を選択する。(☞14ページ「最適な周波数の選択」)
雑音が多い	➡ トランスミッターとAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。(☞11ページ) ➡ ヘッドホンのOPRランプが使用中に点滅したり、音がひずむ、とぎれとぎれになる、「ボッボッ」というノイズ音が聞こえたり雑音が多くなった。(☞9ページ) • 専用充電式電池が消耗しているので充電をする。充電できないときは専用充電式電池またはアルカリ乾電池を新しいものと交換する。 ➡ トランスミッターとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどがないか確認する。(☞17ページ) ➡ 最適な周波数を選択する。(☞14ページ「最適な周波数の選択」)
アナログ入力で使用中、音声が聞こえなくなった	➡ アナログ入力で非常に小さい音が約5分間続いたときは、自動停止機能が働き音声が聞こえなくなることがあります。(☞13ページ) • この場合は、本機にアナログ接続している機器の音量を上げ、ヘッドホンの音量を下げてください。
サラウンド効果が得られない	➡ トランスミッターのSURROUND切換ボタンで「DD HEADPHONE」、「DD HEADPHONE MOVIE」または「DD HEADPHONE MUSIC」サラウンドモードに切り換える。(☞15ページ) ➡ 再生中の音源がマルチチャンネル信号になっていない。モノラル音源の場合、サラウンド効果は得られません。(☞15ページ)
電波の送信が停止しない	➡ つないだ機器からノイズ信号が入っている。 • つないだ機器の電源を切る。

症状	原因と対応のしかた
DD DIGITALランプが点灯しない	➡ DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)の音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている。 • お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、ドルビーデジタルデコーダーを内蔵した機器を使用するときの設定(「ドルビーデジタル/PCM」、「Dolby Digital」など)に切り換えてください。 ➡ ドルビーデジタルフォーマットで記録されていない信号を再生している。 ➡ 再生中のチャプターの音声がドルビーデジタルの信号になっていない。
DD PRO LOGIC Ⅱランプが点灯しない	➡ トランスミッターのSURROUND切換ボタンの設定が「OFF」になっている。(☞13ページ) • SURROUND切換ボタンで「DD HEADPHONE MOVIE」または「DD HEADPHONE MUSIC」サラウンドモードに切り換える。(☞15ページ) ➡ アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号、ドルビーデジタル2チャンネル信号またはMPEG-2 AACの2チャンネル信号が入力されていない。
DD PRO LOGIC Ⅱランプが点灯してしまう	➡ トランスミッターのSURROUND切換ボタンの設定が「OFF」以外になっている。(☞13ページ) • SURROUND切換ボタンで「OFF」に切り換える。(☞15ページ) ➡ アナログ入力信号、デジタル入力のPCM信号、ドルビーデジタル2チャンネル信号またはMPEG-2 AACの2チャンネル信号が入力されている。
DTSランプが点灯しない	➡ DVDプレーヤー(ゲーム機を含む)のDTSデジタル出力設定が「OFF」や「切」になっている。(☞11ページ) • お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、DTSデジタル出力設定を「ON」や「入」に切り換えてください。 ➡ DTSフォーマットで記録されていない信号を再生している。 ➡ 再生中のチャプターの音声がDTSになっていない。 ➡ DVDプレーヤーがDTSに対応していない。(☞11ページ) • DTSに対応したDVDプレーヤーをお使いください。
MPEG-2 AACランプが点灯しない	➡ テレビの音声デジタル出力の設定が「PCM」になっている。 • テレビの取扱説明書をご覧になり、MPEG-2 AAC信号が出力されるように設定を変更してください。
2ヵ国語の音声が選択できない	➡ 2ヵ国語の音声出力を選択して出力できる機器はLINE IN端子にアナログ音声出力をつないで、つないだ機器側で聞きたい音声を選んでください。(☞12ページ)
充電できない	➡ トランスミッターのOPR/CHGランプが赤く点灯しない。(☞7ページ) • ヘッドホンがトランスミッターの正しい位置にのせられているか確認する。 • 充電端子にゴミが付着している。綿棒などでゴミを軽くふき取る。 ➡ 充電式電池が劣化している。 • 別売品の専用充電式ニッケル水素電池をお買い求めください。(☞8ページ) ➡ 乾電池が入っている。(☞9ページ) • 必ず付属の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。 ➡ 付属以外の充電式ニッケル水素電池が入っている。(☞8ページ) • 必ず付属または別売品の専用充電式ニッケル水素電池を入れる。

主な仕様

■トランスミッター　RP-WF5500T

デコーダー機能
ドルビーデジタル
ドルビープロロジックⅡ
DTS
MPEG-2 AAC

サラウンド機能
DH（ドルビーデジタル／DTS／MPEG-2 AAC 時）
MOVIE ＋ DH（ドルビープロロジック Ⅱ 時）
MUSIC ＋ DH（ドルビープロロジック Ⅱ 時）
OFF

変調方式 DSSS

搬送波周波数
2,412 MHz／2,438 MHz／2,464 MHz

到達距離 最長約30 m

伝送帯域 20 Hz〜22,000 Hz

再生サンプリング周波数
32 kHz／44.1 kHz／48 kHz
（96 kHz／192 kHzには動作保証できません。）

ひずみ率 0.1 %以下（1 kHz）

音声入力 光デジタル入力（角型）× 2系統
アナログ入力（φ3.5 mm ステレオミニジャック）× 1系統

音声出力 光デジタル出力（スルー）（角型）× 1系統

電源 DC 6 V（付属のAC アダプターを使用）

最大外形寸法　（幅 × 高さ × 奥行）
123 mm × 88 mm × 175 mm

質量 約255 g

■ヘッドホン　RP-WF5500H

変調方式 DSSS

搬送波周波数
2,412 MHz／2,438 MHz／2,464 MHz

再生周波数帯域
20 Hz〜22,000 Hz

電源 付属の専用充電式ニッケル水素電池（2,000 mAh × 1本）
または別売の単3形乾電池（1本）

最大外形寸法　（幅 × 高さ × 奥行）
165 mm × 190 mm × 77 mm

質量 約255 g
(付属の専用充電式ニッケル水素電池含む)

■トランスミッターとヘッドホンの充電状態

最大外形寸法　（幅 × 高さ × 奥行）
170 mm × 95 mm × 190 mm
170 mm × 165 mm × 175 mm
(スタンドを立てた時)

■ACアダプター　RFX7230

定格入力 AC 100 V、50/60 Hz

定格出力 DC 6 V、600 mA

入力容量 9 VA

動作待機中のACアダプター消費電力
約1.3 W（トランスミッターにヘッドホンがのっている状態）

■許容周囲温度
0 ℃〜40 ℃

許容周囲湿度
10 %〜80 %RH（結露なきこと）

注）この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

推奨アクセサリー

光デジタル接続ケーブル
- RP-CA2020（約2 m）
（光角型プラグ⇔光角型プラグ）
- RP-CA2120A（約2 m）
（光角型プラグ⇔光ミニプラグ）

オーディオ接続コード
- RP-CAPM3G15（約1.5 m）
（φ3.5 mmステレオミニプラグ⇔ピンプラグ×2）
- RP-CAM3G15（約1.5 m）
（φ3.5 mmステレオミニプラグ×2）

交換用イヤーパッド（サービスルート扱い）
- RFX7275（ホワイト仕様）
（1 個）（左、右パッド共用）
- RFX7390（ブラック仕様）
（1 個）（左、右パッド共用）

安全上のご注意　（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。**
（下記は絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠危険

充電式電池は本機（ヘッドホンとトランスミッター）と付属のACアダプターを使って充電する

本機以外で充電すると、電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。
- 充電式電池も必ず指定のものをご使用ください。

充電式電池は、はんだ付け、分解、改造したり、火の中へ投入、加熱はしない

電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。

⚠警告

分解、改造をしない

本機が故障したり、金属物が入ると、やけどや火災の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

ぬれた手で、ACアダプターの抜き差しはしない

感電の原因になります。

安全上のご注意 （必ずお守りください）

⚠警告

ACアダプターのプラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使わないでください。

ACアダプターのコード・プラグを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ACアダプターのプラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
- ACアダプターを抜き、乾いた布でふいてください。

水などの液体をかけたり、ぬらしたりしない

本機の内部に入ると、ショートや発熱の原因になります。

充電式電池の⊕と⊖をショートさせない

電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。
- ネックレスなどの金属物といっしょに保管しない。
- 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。はがれたものは使わないでください。

使い切った乾電池は、すぐに本機から取り出す

そのまま本機の中に放置すると、電池の液もれや、発熱、破裂の原因になります。

病院内や医療用電気機器のある場所で使用しない

本機からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

心臓ペースメーカーを装着している方は使用しない

本機からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

⚠警告

乾電池は誤った使いかたをしない

- **乾電池は充電しない**
- **加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない**
- **⊕と⊖を針金などで接続しない**
- **金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない**
- **⊕と⊖を逆に入れない**
- **被覆のはがれた電池は使わない**

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。
- 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

雷が鳴ったら、本機やACアダプターのプラグに触れない

感電の原因になります。

⚠注意

異常に温度が高くなるところに置かない

外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

ヘッドホンなどが直接触れる耳や肌などに異常を感じたら使用を中止する

そのまま使用すると、炎症やかぶれなどの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

長期間使わないときは、本機から電池を取り出す

電池の液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

保証とアフターサービス （よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた、お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このデジタル ワイヤレス サラウンド ヘッドホンの補修用性能部品を、製造打ち切り後6年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

19～21ページの「故障かな!?」の表に従ってご確認のあと、直らないときは、まずACアダプターを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

● 保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。
下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

● 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

- 技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
- 出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容	
製品名	デジタル ワイヤレス サラウンド ヘッドホン
品番	RP-WF5500
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

松下電器産業株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック
お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30
(closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック
修理ご相談窓口

ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

ナショナル パナソニック 修理ご相談窓口

北海道地区

- **札幌** 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251
- **旭川** 旭川市2条通16丁目1166 ☎(0166)22-3011
- **帯広** 帯広市西20条北2丁目23-3 ☎(0155)33-8477
- **函館** 函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎(0138)48-6631

東北地区

- **青森** 青森市大字浜田字豊田364 ☎(017)775-0326
- **秋田** 秋田市外旭川字小谷地3-1 ☎(018)868-7008
- **岩手** 盛岡市厨川5丁目1-43 ☎(019)645-6130
- **宮城** 仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117
- **山形** 山形市平清水1丁目1-75 ☎(023)641-8100
- **福島** 郡山市亀田1丁目51-15 ☎(024)991-9308

首都圏地区

- **栃木** 宇都宮市上戸祭3丁目3-19 ☎(028)689-2555
- **群馬** 前橋市箱田町325-1 ☎(027)254-2075
- **茨城** つくば市筑穂3丁目15-3 ☎(029)864-8756
- **埼玉** 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960
- **千葉** 千葉市中央区末広5丁目9-5 ☎(043)208-6034
- **東京** 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780
- **山梨** 甲府市宝1丁目4-13 ☎(055)222-5822
- **神奈川** 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
- **新潟** 新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-0180

中部地区

- **石川** 金沢市横川3丁目20 ☎(076)280-6608
- **富山** 富山市根塚町1丁目1-4 ☎(076)424-2549
- **福井** 福井市問屋町2丁目14 ☎(0776)25-5001
- **長野** 松本市寿北7丁目3-11 ☎(0263)86-9209
- **静岡** 静岡市葵区千代田7丁目7-5 ☎(054)287-9000
- **愛知** 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225
- **岐阜** 岐阜市中鶉4丁目42 ☎(058)278-6720
- **高山** 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
- **三重** 津市久居野村町字山神421 ☎(059)255-1380

近畿地区

- **滋賀** 栗東市霊仙寺1丁目1-48 ☎(077)582-5021
- **京都** 京都市伏見区竹田中川原町71-4 ☎(075)646-2123
- **大阪** 大阪市城東区関目2丁目15-5 ☎(06)6359-6225
- **奈良** 大和郡山市筒井町800番地 ☎(0743)59-2770
- **和歌山** 和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
- **兵庫** 神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4 ☎(078)796-3140

中国地区

- **鳥取** 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695
- **米子** 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129
- **松江** 松江市平成町182番地14 ☎(0852)23-1128
- **出雲** 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133
- **浜田** 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629
- **岡山** 岡山市田中138-110 ☎(086)242-6236
- **広島** 広島市西区南観音1丁目13-5 ☎(082)295-5011
- **山口** 山口市小郡下郷220-1 ☎(083)973-2720

四国地区

- **香川** 高松市勅使町152-2 ☎(087)868-6388
- **徳島** 徳島市沖浜2丁目36 ☎(088)624-0253
- **高知** 高知市仲田町2-16 ☎(088)834-3142
- **愛媛** 愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1 ☎(089)905-7544

九州地区

- **福岡** 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036
- **佐賀** 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044 ☎(0952)26-9151
- **長崎** 長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658
- **大分** 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815
- **宮崎** 宮崎市本郷北方字草葉2099-2 ☎(0985)63-1213
- **熊本** 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067
- **天草** 本渡市港町18-11 ☎(0969)22-3125
- **鹿児島** 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657
- **大島** 奄美市名瀬朝仁町11-2 ☎(0997)53-5101

沖縄地区

- **沖縄** 浦添市城間4丁目23-11 ☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0108

さくいん

愛情点検 長年ご使用のデジタル ワイヤレス サラウンド ヘッドホンの点検を！

こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある	▶	このような症状の時は使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）	お買い上げ日	年　月　日	品　番	RP-WF5500
	販売店名	☎（　）　－	お客様ご相談窓口 ☎（　）　－	

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ

〒571-8504　大阪府門真市松生町1番15号

RQT9044-3S
M0907TK3028